

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三段畑8-1		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成27年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	〒612-8243 京都市伏見区久我御旅町3-20		
訪問調査日	平成28年3月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人スタッフの配置、新規入居者の入居において該当のフロアだけでなく、ホーム全体で見守っていく姿勢がある。</li> <li>・入居者は自由に行き来することができて、落ち着いて過ごすことができる環境である。</li> <li>・ご家族にいつでも来て頂けるように来所時には楽しく過ごして頂き、また来たいと思って頂けるように温かい場であるように努めている。</li> <li>・個人の尊厳を大切にその人らしい生活をすごしていただくようにスタッフ全員が取り組んでいる。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>西山の郷は長岡京市の豊かな自然が残る閑静な住宅街にあるグループホームです。事業所開設時に策定された理念である「個人の尊厳を大切に」「画一性、おしつけの排除」「地域社会との融合を図る」を掲げ、毎朝唱和するとともに日々の中でどう具体化を図るかを追求されています。開設14年が経過し、入居者の高齢化・重度化が進む中、看取りや医療的ケア等の取り組みにも力を入れておられました。訪問調査においてはあらゆる場面において一人ひとりを大切に作る姿勢が声のかけ方や見守りにうかがわれました。また、入居者ができることを一緒にしながら食事を楽しんだり、おやつ作りを楽しむなど、家庭的な雰囲気を感じました。職員同志のチームワークの良さも各ユニットにうかがえ、フロアを超えた交流としてドライブやレクリエーションなどの活動も行われています。日常的に家族の訪問や近隣の知人との外出、地域の方との会話や交流があり、関係性の継続も大切にされていました。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日理念を唱和することで原点に立ち返ることをしている。お一人お一人の思いに耳を傾け、やりたいこと・できることの継続を支援している。</li> <li>・医療面に関してもかかりつけ医を継続してもらい、地域の中で安心して生活して頂いている。</li> <li>・初詣やお花見等地域の神社などへ行き、馴染みの場所を大切にしている。お祭りなど地域の行事に参加出来る機会を大切に、地域の方との交流を大切にしている。また、書道など展示会への出品する機会を地域ボランティアが作って下さり、参加する事の喜びを感じて頂いている。</li> <li>・幼稚園児の訪問や大正琴などのボランティアの訪問に地域交流の温もりを感じている。</li> <li>・誕生日にはお一人ずつお祝いの会を実施している。一人一人がかけがえのない存在であること、その人らしいプレゼントを選ぶにはその人らしさを考え、また今その人には何が必要かを考える機会にもなる。生きてこられた年月、今ここにおられることに感謝しつつ職員全員でお祝っている。</li> <li>・自由に行動でき、気持ちを閉じ込めることのないようなケアに取り組んでいる。</li> </ul>	<p>事業所開設時に策定された理念、「個人の尊厳を大切に」「画一性、おしつけの排除」「地域社会との融合を図る」は、朝礼で唱和して職員に徹底されている。理念を支援のなかで具現化するため、食事や入浴、電話なども時間を固定することなく、一人ひとりの生活スタイルを尊重して、自分らしい生活ができるよう支援している。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の方との挨拶を大切にしている。また、散歩をしているときなど地域の方から声を掛けていただくこともあり温かい気持ちを頂いている</li> <li>・季節を味わえる作物や四季折々のお花を頂くこともある。</li> <li>・憩いの時間には近隣の喫茶店に行くなど地域との繋がりを大切にしている。</li> <li>・中学生には体験学習を通じて認知症を理解してもらえる機会がもてている。</li> <li>・夏祭りの盆踊りには地域のボランティアが踊りに参加頂いたり、近隣の方々にお知らせをして参加を呼びかけ、交流の機会となっている。</li> <li>・今年は地域自治会の方にお会いして、秋祭りにおいて子供神輿や獅子舞がホームの庭まで入ってきてもらうこととなり、皆さんの大きな喜びとなった。</li> </ul>	<p>入居者の多数が地域の方で、家族をはじめ知人友人の訪問も多く、知人との外出などもある。散歩時に地域の方から声を掛けてもらったり、野菜や花の差し入れを戴くなど日常的に交流がある。事業所の夏祭り等は地域ボランティアや近隣住民との交流の場となっている。また、地域秋祭りの際には子供神輿や獅子舞の来訪があり、入居者も地元青年会の方も双方が交流を楽しむ機会となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会には入っていないが、職員のなかにも地域の方がおられ、今後ますます地域との交流の機会を増やしていきたいと考えているということであり、地域向けの広報誌の作成などを期待します。</li> </ul>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・中学生の体験学習の時に認知症の理解に繋がる取組みを実施したり、見学者の対応や相談の窓口として地域の方々へ貢献出来るよう努めている。 キャラバンメイトとして市の依頼より、認知症サポーター養成講座の講師を派遣している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回運営推進会議が開催され、ユニットとしての現状を報告させてもらい、その場で聞かせてもらう意見や情報を大切に活かしている。また運営推進会議で話し合った事をユニット会議で報告、職員が共有する事でケアの向上を図っている。 ・全ての家族向けに、広報誌を通じて内容を公表している。	参加者は、家族、地域住民、民生委員、行政、近隣協力施設、地域包括センター、各ユニットリーダー職員で、活発な意見交換、情報共有の場となっている。会議の中で家族から看取り体験を聞いたり、参加者の提案により地元小学校の催しに参加するなど意見を実践に活かしている。また、協議内容はユニット会議に報告し、職員間で共有している。	・3階の共有デイサービスセンターについても、来年度から運営推進会議を開催していく予定との事であり期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議には高齢介護課・地域包括支援センター・民生委員等、市町村との連携がある。 ・地域のグループホーム連絡会ではグループホーム間での連携と共に行政や地域包括支援センターからの参加もあり、地域との連携を深める機会となっている。	・運営推進会議や乙訓地域のグループホーム連絡会にも市の高齢介護課から参加があり、情報交換を行っており、日常的に連携を図り顔の見える関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・外が気になったり人の出入りが多い時など、職員が気づかぬうちに外出してしまう人もあり、常に所在確認を職員が声を掛け合い行ってそばに寄り添うなどして、安心・安全に努めている。 ・下肢筋力の低下や歩行が不安定な方には安全のために待ってもらうこともあるが、出来るだけ早く対応して気持ちや行動を閉じ込めることの無いように心がけている。 ・ふらつきや転倒の危険のある方等、ヒヤッとしたこと、はっとしたことを「ヒヤリはっと」に記入し、行動を把握する事で、行動を制限しないような見守りが出来るよう努めている。 ・各フロア毎の往来は自由であり所在確認の連絡を取りながら、入居者は自分の好きなところで過ごすことができる。	虐待や身体拘束をテーマにした内外研修を受講しているほか、一人ひとりの入居者にとってどのようなことが拘束に当たるかについて、職員間で具体的に協議している。外が気になったり徘徊する方が、どういう時に立ち上がられるのかについて、多岐にわたる視点で表情や仕草を観察し、アセスメントして、可能な限り気持ちと行動を制限しないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は外部研修・自主研修を通して虐待防止法等、認知症ケアについて学んでいる。職員間でも意識を高めてケアにあたっている。</li> <li>・ユニット会議においても研修し、職員で共有しケアについて検討する機会を設けている。</li> <li>・常に入居者の視点に立って考える姿勢を大切にしている。</li> <li>・虐待はないが内服薬服用の影響にて内出血のしやすい方もおり、その状態把握に努め、医師との連携とご家族への報告を行っていく。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後見人制度を利用されている方がお二人いる。</li> <li>・日常生活自立支援事業や成年後見制度については外部研修を受講したり、内部研修において学びを深めていく。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は2名の新規入居の契約がある。ご本人やご家族の話を傾聴し、話し合いの中で課題を明らかにする事で、不安の軽減に努めている。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族、入居者の言及された事の真意を汲むべき姿勢に職員一同努めている。</li> <li>・日常の面会以外にも運営推進会議にて、ご家族の意見を聞く機会がある。会議には行政の方の参加もあるので意見交換ができ、運営に反映させることが出来るよう努めている。また家族向けの広報誌で入居者、家族の意見や要望について話し合った結果を報告している。</li> <li>・苦情として言葉に出されていないことについてもご家族と接している時に感じた事は、迅速に申し送りにて改善している。</li> <li>・ボランティアの活用などにより、楽しみ方を増やしていけるよう努める。</li> </ul>	職員は入居者一人ひとりとの会話を大切に して、入居者が自分らしい生活を諦めることなく思いを表しやすい雰囲気づくりに努めている。家族からは面会時をはじめ日常的に意見を聞き、運営推進会議にも参加を依頼して、意見や要望には迅速に対応し、改善に活かしている。また、家族向けの広報誌を作成して情報提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニット会議等が出た職員の意見や提案を、リーダー会議を通じて管理者に伝える事が出来る。</li> <li>・個人面談の機会もあったり管理者がそばにいたので、いつでも意見や提案が出来る環境にある。</li> </ul>	職員が参加するフロアごとのユニット会議、ユニット間で情報共有するリーダー会議、支店の管理部門も参加するグループリーダー会議など、体系的な意思決定の仕組みが整備されている。職員間では日頃から意見交換を大切にする組織風土があり、新人から経験者まで幅広い階層の職員が連携してチームケアを大切にしている。また、管理者との職員面談は毎年実施されている。離職率が低く、長年勤務してきた職員も多数いて、新人職員の安心につながっていると聞き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福利厚生として、職員にポイントが支給され、買い物、旅行などに使用している。</li> <li>・資格習得へのサポートがあり、意欲向上に繋がっている。</li> <li>・職場レク等、食事界等を通じて職員間の親睦を深める機会が設けられている。</li> <li>・人事偶制度の中で、役割ベースで資格進級がある。</li> <li>・11月16日よりパート職社員の就業時間を変更した。各パート職社員が手芸やおやつ作りなどそれぞれの特技を活かして、午後の時間を充実させてくれている。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修には個人で参加する場合もあるが施設として参加する場合もある。参加出来る様に勤務体制を調整している。</li> <li>・ユニット会議では、毎月の自己研修・研修の報告の分かち合い等で日常へのケアに活かすように努める。</li> <li>・リーダーとのコミュニケーションの時間を設ける等、職員をOJTの中で育成している。</li> <li>・看護職員による嚆下の仕組みや清潔保持の意味や方法などの研修も行い、スキルアップに繋げている。また、看取り期にはカンファをして統一ケアにつなげている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府グループホーム協議会や乙訓地区グループホーム連絡会に積極的に参加し、意見交換・情報の共有に努めている。</li> <li>・他事業所に見学に行く機会もあり、スタッフ間の交流や意見交換等も行なっている。近隣のグループホームの夏祭りに参加した。また、こちらにも来て頂き楽しい交流がもてた。</li> <li>・当社の全社研修に施設長研修、リーダー研修、スタッフ研修があり、階層ごとの交流がある。</li> <li>・在宅療養手帳委員会にも参加している。医師やケアマネジャー、介護職スタッフなどが集まり顔の見える関係作りが出来ている。</li> </ul>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所と周りの環境に慣れてもらうためにまずは職員との良好な関係が持てる様、個人を尊重しプライドを傷つけない言葉がけと見守りに注意している。</li> <li>・これまでの生活習慣等をご本人から聞いたり、行動より察したりして早い時期に慣れて頂けるように努めている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族の状況も把握し、ご本人とご家族の思いと要望を受け止めて、援助計画に反映してケアを実践している。</li> <li>・環境の変化の様子もお伝えして、安心と新たな要望が言い易い関係作りと信頼関係を築くことに努めている。</li> </ul>		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族として心配している事、して欲しい事は厳重に受け止めている。</li> <li>・ご本人の好む事、興味などを家族に情報としていただき、これまでに継続してきたことが変わらずに行えるよう支援している。</li> <li>・転倒や転落などの危険やその方の行動動線を考えて一緒に家具の配置を考えたり、安全面から必要時には福祉用具を検討、ご家族とも相談していく。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自発的な動きを大切にしている。また自ら表現する事の少ない方にもアセスメントする事で、出来る事、出来ない事を把握し無理の無い提案をしてみよう(テーブル拭き等)、生活感を感じてもらったり感謝の言葉を添える事により存在感や自信へと繋げている。 ・職員は笑顔を持って、また、入居者の笑顔が見られるようにより関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・体調についてはもとより、心身の変化についても伝えて理解を頂いている。家族の心配などにも丁寧に説明することで安心に繋げている。家族の面会により表情が明るくなったり安心されることを伝えている。家族の理解と信頼関係が築かれるように、面会の機会が増えるように努めている。 ・嚙下の心配な方にはご家族に状況を伝えることでご家族が見守りに来てくださったり、共に考える関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・年賀状や暑中見舞いを出される方のお手伝いをして馴染みの方との関係を大切にしている。 ・入居年数が長くなり、またご年齢を重ねることで馴染みの人や場所が少なくなる現状がある。ご友人などの面会時には、和やかにお過ごしいただくよう場を整えるなど配慮している。	地域からの入居者も多く、近所の友人と外出したり、地元の寺社仏閣に花見などに出かけたり、馴染みの人や場所との関係を大切にしている。家族に協力をしてもらい外出や旅行をされる方もある。また、職員は年賀状等を出される方のお手伝いをしたり、入居者の思いを大切に聞きながら、関係継続の支援を行っている。	
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員は他者同士の関係作りの橋渡しをしている。 ・他者の好みや得意な事など他者同士を紹介しあったり、共通の話題を見つけて会話を繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された方の家族と会った時には思い出話をしたりして、懐かしく時間を過ごす時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや希望、意向の把握に努めている。ご家族より意見をいただきケアプランに反映させている。</li> <li>・自分の意向を伝えにくくなった方には日中の過ごし方や他者との関わり、レクリエーションを通じて出来る事や好みの発見等により、楽しみを広げられるよう支援している。一人一人にあったレクリエーションを行い、無理なく楽しめるようにしている。</li> <li>・またアセスメントを行い出来る事や出来るための支援方法を考え役割を持ってもらう等、自己を肯定できたり自信に繋がられるように努めている。</li> <li>「天気がいいなあ」とお外を見られるときにはドライブへ出たりするなど、その時その時のご希望に添えるよう、フロアを超えた対応をしている。</li> </ul>	<p>入居から長い年月が経ち、高齢化、重度化が進み、自分の意向を言葉で伝えられない方も多量中、職員全員で「視線の先にあるものを見逃さない」という思いで、表現や仕草を観察して個別の寄り添い方を検討している。本人や家族が安心できる生活の場になるように、入居者が不安な時には、「一人ではなく温かい環境に居てほしい」という思いで寄り添い、一緒に次の行動に誘うよう努めている。</p>		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター方式のシートを利用して、ご家族に生活歴、習慣、環境、好み等の情報提供のお願いをしている。面会時にもお話を伺い把握に努める。またケアマネジャーから情報を得ることもでき、参考としている。</li> <li>・日々の関わりの中でもその人となりを引き出せる様会話を大切に、またその行動からも情報を読み取り、ケースに記録していく。</li> <li>・各職員が知り得た情報はユニット会議で共有していき、ご本人の全体像に繋げていく。</li> </ul>			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝や夕方の申し送りには気になる入居者の体調・心身状態を伝え、施設全体で見守っている。</li> <li>・歩行状態、排便状態等を観察して下肢筋力や体調の把握に努めている。</li> <li>・夜間の入眠状態、体調や便秘等が気持ちに影響していないか等も考えながら、1日の過ごし方を考えていく。体調や体力をみて、身体を休める時が必要な方もおり、休息を取りながら食事を楽しんだり会話を楽しむ時間を持っている。</li> <li>・1日をどう過ごしたいかをご本人に聞いて、一緒に考える。天気の良い日には散歩や外気浴にて気分転換をしている。</li> </ul>			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の方にも現状をお伝えしながら、ご本人の思いをお聞きしたり、月一回のユニット会議におけるケアカンファレンスによって、職員の意見やアイデアを確認し、それらを援助計画に盛り込んでいくことを基本に作成している。できることの継続のためにアセスメントを行い、環境を整えたり、支援の方法を探っていく。体調の見守りについてはかかりつけ医や看護職員の意見を参考にして、職員で共有してケアをしていく。</li> <li>・体調や気持ちの変化など直ぐに対処すべきことが生じた場合には、ミニカンファという形態をとり迅速にケアに当たっている。</li> </ul>	<p>本人や家族の思いを尊重し、センター方式を基本とした独自のアセスメントを実施して、ケアマネジメントには力をいれている。毎月開催するユニット会議のケアカンファレンスにおいて職員間で協議のうえ、ケアプランを作成している。ケアプランは本人や家族にとって分かりやすいように、支援について具体的に記載されている。モニタリングは、できなくなったことに着目することなく、自分を支える力を維持してもらうための支援に繋がるように意識している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助計画は定期的にモニタリングを行い（必要時には随時行い）、再アセスメントを行い、計画・援助内容の見直し、次なる援助計画の作成に努めている。特別な変化（入院等）の場合は、その時点で現状に即した介護計画の作成に努めている。家族の意向、看護師や主治医の視点をもらいながら、本人本位の計画の作成に努めている。</li> <li>・日々、一人ひとりの様子やケアをケース記録として残している。その記録を元に、アセスメント、モニタリングとして記録に残しながら次なる援助計画に向かっていく。</li> <li>・記録と同時に日々のお一人おひとりの申し送りは職員のコミュニケーションと実践に結ぶものとなっている。</li> <li>・体調に変化が生じたときは観察に必要な事項を別表にして記入している。排尿・排便の表を活用して体調把握に努めている。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当所では、居宅支援事業所と訪問サービスがあり、ホームヘルパー、ケアマネジャーも在籍し、在宅での智慧、他施設の智慧を教えてもらったりすることができる。利用者の状況に伴い、歩行器、徘徊防止センサー等福祉器具の情報提供、導入使用に繋げている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園児の訪問や傾聴ボランティア、大正琴の演奏など地域の方々に協力を頂き充実した生活の支援につなげている。また、年2回の避難訓練における消防との連携は安心安全への協働となっている。</li> <li>・月に一回、書道のボランティアの先生が来られる。併せて週に一度の練習日も設け、上達が喜びとなっている。</li> <li>・畑で野菜作りをしてくれる人もあり季節の野菜が食卓にのぼっている。また、サツマイモができる秋は芋ほりを楽しむことができている。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的にはご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の受診体制が整備され、安心して受診してもらっている。訪問診療を受けられる方やご家族対応で受診される方もある。</li> <li>・たけフロアで5名のかかりつけ医がおられる。またホーム全体では12名のかかりつけ医に来ていただいております、24時間対応可能となっている。</li> <li>・診療の記録は在宅療養手帳に記入される。これには看護師や職員も気付きを書いている。一人ひとり医師会が登録したご本人の手帳があり、かかりつけ医、看護師、職員が連携して体調の見守りをしている。</li> <li>・必要に応じてかかりつけ医の他に歯科医、地域の専門医の訪問診療と連携がある。</li> </ul>	以前からのかかりつけ医の継続を基本として、現在はホーム全体で12名のかかりつけ医の往診があり、訪問看護を利用している方もある。また、協力医との連携があり、24時間対応が可能である。受診記録等は乙訓医師会が発行する在宅療養手帳に記載し、本人や家族、介護、医療が有効な連携を図る体制が整備されている。週に1度、非常勤看護師による健康管理を行い、医療的ケアの研修も実施されている。	地域で在宅療養手帳委員会が開催され、医療的ケアやチームケアについて、多職種で協議されている。地域の特徴を活かして、医療職との連携についてさらに発信されることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤看護師による医療管理をしている。</li> <li>・予定ではない週においても診てもらったり、相談出来る体制となっている。必要時に医師への連絡もしてもらったり、相談、アドバイスをもらいながら体調の見守りをしている。かかりつけ医の指示により訪問看護師が入ることもある。</li> <li>・看護職員による医療的ケア研修が年2回あり、全ての職員が参加して学びを実践に活かしている。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院された利用者には、退院後の生活がよりスムーズになっていただけるよう、安心に繋げるよう面会に行っている。</li> <li>・基本的にはグループホーム職員は第三者扱いとなり個人情報の関係で情報をいただけないため、ご家族と連携し、ソーシャルワーカー・看護師等と密に連絡を取り、現状を確認し退院後のケアを含めて情報の交換をする。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族と共にかかりつけ医から状態説明を聞いたり、本人や家族の意向に添う。</li> <li>・看取りの指針を説明し、文書でターミナル時の対応を確認している。</li> <li>・ご家族の協力や医療職との連携により、人生の結びの時を最後までその方の尊厳を大切にできるケアに努めている。</li> </ul>	<p>入居時に看取り指針について説明し、適切な時期にターミナル同意書により対応を確認している。開設から14年目を迎え、入居者の高齢化、重度化が進むなか、看取り介護について研修をするなど、若い職員にも看取りについて丁寧に伝えている。本人や家族と話し合いを重ねその意向に沿えるよう、医師や看護師を含めたカンファレンスで支援の方向性を定め、医療と連携したチームケアで支援に当たっている。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急マニュアルを常時スタッフルームに掲げてあり、職員同士で確認している。また、他ユニットの方で緊急事態発生時の様子も朝礼等で共有してもらい応急手当、初期対応への自覚が日常的にも深められるようにしている。</li> <li>・救命講習も受けるよう努めている。</li> <li>・救急時には緊急持ち出し書類として備えられている。(薬や既往歴、現病歴等利用者の情報が纏められている)</li> <li>・迅速に連絡できるように連絡網を確認している。</li> </ul>	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害マニュアルの確認と共に消防署の協力を得て避難訓練を毎年2回実施している。新人職員には消火器の扱い方も含めて、実地指導をしている。</li> <li>・入居者お一人おひとりの状況に合わせて、職員が避難の順番等を確認している。施設管理者が、地域に協力をはたらきかけている。</li> <li>・避難の妨げや火災の防止のために必要機器を点検している。</li> </ul>	<p>火災、地震などの災害時のマニュアルが整備され、災害時の職員の行動が明確にされている。年間2回は、消防署の協力のもと昼夜の避難訓練を実施している。職員が地域の防災学習会に参加して災害対策への意識を高め、食品等3日分の備蓄をしている。</p>	<p>今後は地域住民と共同した訓練を実施していく予定との事であり今後に期待します。</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お一人おひとりの誇りやプライバシーを大切に言葉遣いや対応を心がけている。</li> <li>・排泄時や入浴時等の羞恥心等にも配慮し、気持ちよく過ごしていただけるよう心がける。</li> <li>・一人の言葉や動作の中にその方の人生の歴史が刻まれている。それらの重さを大切にしたいと願い、傾聴し、その方の理解につなげている。その方の存在の肯定を何よりも大切にしている。</li> </ul>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーの尊重については、職員間で最も大切に考え、プライバシー保護など利用者の尊厳をテーマとして研修を開催している。日頃から年長者への敬意を表して、職員は丁寧に穏やかな言葉遣いで、行動を制止しないよう心掛けている。居室に入る時は必ずノックして声をかけるなど、日々の対応にも配慮が見られる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何よりも入居者お一人お一人の表現を受け止め、自分の思いやかんじていることが表現できるよう自由な雰囲気作りに努めている。</li> <li>・選択出来る様提示する方法を取ったり、意思表示の難しい方には入浴時の衣類を一緒に選んだり、配茶事の飲み物を選んでもらったり等、ご本人の好みやその時の気持ちを大切にしている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を大切に使いたい、役に立ちたいと花の水やりを役割にしている方がいる。</li> <li>・自分では何をしたいかわからないと言う方、あまり皆と合わせるのが上手でない方、ご自身ではレクに参加せずともその場にいることに心地よさを感じて落ち着いて居眠りをされている方、気持ちと現実の隔たりがありつつも安心できる居場所になるようにご自身のペースで生活してもらっている。</li> <li>・ゲームをしている方もいれば、その場いながら新聞を読む方、また入室して休憩とる方、安心してそれらができる環境の創造を大切に支援し、見守らせて頂いている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や季節にあった服装ができるように支援している。また、お誕生日にお似合いのものを選んでプレゼントすることもある。</li> <li>・月一回は美容師が訪問してくださり、その方に似合ったカット、顔そり等をしてもらっている。</li> <li>・起床時、入浴時には身だしなみ、服装等一緒に整えている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台所で立つて調理を行うことは難しいが、テーブルにホットプレートを置いてお好み焼きを焼いたり干し柿づくりをするなど季節感を楽しんでいる。また食事作りは難しい方も、おやつでたこ焼きを作ったりケーキ作りを行うなど楽しみを広げている。</li> <li>・座って出来る事、テーブル拭きや盛り付けなどを一緒に行ったり、味見をお願いしたりして、自分達も関わったという気持ちがより食事を楽しみにしている。</li> </ul>	<p>季節感のある献立に基づき上質の材料を使って、各フロアの台所で職員が調理し、利用者も盛り付けや後片付けなど、できる事を一緒にしながら食事を楽しんでいる。咀嚼や嚥下状態により食事形態を変える、出汁をしっかりとることで減塩する、湯で野菜でカリウムを制限するなど個別対応を行っている。残食は少なく、入居前より栄養状態が改善される方が多いと聞き取った。利用者の好きなおやつ作りを行うなど、食を楽しむ取り組みを日常的に行っている。食事中は静かな音楽をかけるなど、食事をさらに楽しむために効果的な環境整備にも工夫している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養管理については栄養士がサポートしている。お一人おひとりの状態や体調による個人差を鑑みながら毎回の食事量を記録し、習慣、好み等も考慮して、必要な方には刻んだり、ミキサーにかけたりとろみをつける等の工夫もして咀嚼・嚥下の力にあった形態にして、バランスもよい状態で食してもらえるように支援している。</li> <li>・水分が少ない方には声をかけたりお茶ゼリーやポカリスエットなどで摂取を促している。</li> <li>・適切な運動量の確保による相互作用を心がけている。</li> <li>・毎月月初に体重測定を行い、栄養士に報告している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うがいに緑茶を利用して、除菌やさっぱり感に繋げている。</li> <li>・毎食後の口腔ケアにより口腔内の清潔を保ち口臭予防をしている。また、口腔ケア時に義歯の状態を見守り、必要に応じて受診につなげている。</li> <li>・自分で歯磨きをされる方は、声かけ・見守りをする事で、磨き忘れがないように支援している。</li> <li>・随時、歯科受診も行っている。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尿意・便意の訴えがあればすぐにトイレに案内しスムーズな排泄につなげている。訴えの無い方は、お一人おひとりのしぐさの観察や排泄パターンに応じたトイレの声かけを行い、トイレでの排泄が行えるように支援している。</li> <li>・下肢筋力が低下している方には二人介助で出来るだけ便座に座ってもらい、気持ちの良い自立に向けた排尿・排便を支援している。</li> </ul>	個々の排泄リズムやサインを観察して、適切な声掛けを行いトイレ誘導を行っている。病院からの入所時には紙パンツを着用されていた方が、パッドだけで自立された事例もある。下肢筋力の低下している方でも、職員の二人介助により自立に向けた排泄を諦めず支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化と共に自力排便の困難な方も増えて、かかりつけ医より緩下剤使用の方も多くなっているが、薬に頼らず飲食物による整腸に努めている。入浴時で体を温めたり腹部マッサージをして腸の動きを助けたり朝食時にヨーグルトや、おやつにホットミルクやさつまいもを使ったお菓子を出したりと工夫をしている。そのお一人おひとりの状態をみながら、水分の摂取、繊維の多い食べ物の提供等の工夫をしている。</li> <li>・日頃より腸内細菌を整えるためにヨーグルトなどの乳製品を多く取り入れている。</li> <li>・また適度に身体を動かす等により便秘を予防している。緩下剤服用によりすっきりとした排便になる方もあり、その方に応じた便秘の予防と対応を工夫している。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間や順番などの決まりはなく、毎日が入浴可能日になっている。入りたい時に入れるように、一回一回一人ひとりの気持ちを大切にしている。</li> <li>・排泄状況、体調への配慮をしながら、身体の清潔保持、心身のリフレッシュを大切にしている。入浴時は 羞恥心への配慮をしながら入居者とのコミュニケーションにより、お互いの気持ちの交換を楽しむ時となっている。</li> <li>・シャワー浴をするときは行う時は足浴をしながらして全身が温まるよう工夫している。</li> <li>・スキンケアにも気を付けている。</li> </ul>	入浴時については時間や順番などの決まり事を設けず、入居者個々の習慣や希望に応じて、入りたい時に入浴できるように支援している。また、1階フロアは中型浴槽、2階は車椅子の方も入れる浴槽、3階は個人浴槽で、身体状況に合わせた安全な入浴に配慮している。ゆず風呂や菖蒲風呂など季節感を出し入浴を楽しむ取組をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節により体調が異なる方、冬場は咳がしやすい方、乾燥肌にてかゆみの訴えがある方にはローションを塗ったりして乾燥を防ぎ痒みを和らげて安眠に繋げている。室温湿度にも注意をしている。腰痛の方や血液循環が悪い方など同じ姿勢を長く続けないためにも、日中の休息のリズムをとってもらう等の支援も大切にしている。</li> <li>・夜間歩行不安定な方は転倒防止のために、トイレ時の見守りを徹底して安全を確保しながら安眠につないでいる。</li> <li>・入眠時間が遅い方には空腹感がみられ、ホットミルク等を提供すると気持ちも落ち着き穏やかな入眠につながっている。</li> <li>・暗い方が落ち着かれる方もいる、その方には安全のため足元灯を点けている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お一人おひとりの持病と服薬の目的、副作用等を理解してスタッフが管理を行っている。</li> <li>・ご自身の服用している薬について聞かれた時はきちんと説明し、理解して服用して頂いている。</li> <li>・定期薬以外に服用する風邪薬等は、改善等症状を見ながらかかりつけ医の指示を確認していく。</li> <li>・投薬の間違い等がないように、処方箋管理表及び服薬管理表の徹底記入をしている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習字、合唱をしていた方など好きな事や得意な事、日々の生活の中に取り入れている。</li> <li>・夕方になるとリビングのカーテンを閉めてくれたり、職員が洗濯物を取り入れると率先して畳んでくれる方もいる。</li> <li>・気候に応じて、近回りの散歩、ドライブ、ガーデンティータイムやランチの時間など、外気に触れる喜びと共に気分の転換を図っている。外食を楽しむときもある。</li> <li>・広告をみて食べたいおやつがあれば注文したりして、楽しみを持っていただいている。</li> <li>・夏祭りではビールを飲まれたりして楽しんだ。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候のよい日は朝の散歩をそれぞれの身体状況にあわせて実施、支援している。花の水やりなど、その日その日の希望で戸外での活動も大切にしている。庭のテーブルでゆっくりとくつろぎながらお茶の時間も持つように努めている。</li> <li>・季節に応じて、近くの神社へのお花見(初詣、梅、桜、紅葉)、コスモス畑への散歩、ドライブでは四季折々の景色を楽しんでいる。</li> <li>・近くの喫茶店に行ったり、外食に出かけることもある。</li> <li>・家族と外出してお食事に行く方もおられる。</li> <li>・家族の協力を得て、一緒に外食に行くこともあった。</li> <li>・野鳥園に出かけたりクリスマスの夜にはイルミネーション見学に出かけている。</li> </ul>	<p>周囲は住宅街だが、西山連峰が望める豊かな自然が残る地域で休耕田や畑もあり、日頃から散歩をして季節感を楽しんでいる。近隣には神社仏閣もあり、季節に応じて梅、桜、紅葉などが楽しめる。入居者から要望があればできる限り応えられるように調整して、外出や買い物の支援に努めている。近所の店に花、果物、菓子を買に行くことや、喫茶店に行くことを楽しみにされている方もある。家族や友人と外出される方もある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在はお金の管理が個人的には出来なくなり、買い物や代金などは家族請求となっているが、希望があれば買い物に行ける環境を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状をご家族が用意して下さる方もあり、書かれるのを励まし、見守っている。投函にも同行している。 ・ご家族から送りものが届いたときには、ご本人から電話が出来るよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が利用者にとって、不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関は外来者を迎える場であり、花や季節のもの等を飾ったり気持ちのよい空間に心がけている。 ・台所からは料理をする音が聞こえ、匂いから「今日の献立は何か」と想像する楽しみがある。 ・居間・兼食堂はスペース的には狭さを感じることがあるが、テーブルの配置を工夫したり等、共有空間に暖かさと居心地のよさを感じさせている。 ・南側のソファに座って暖かい日差しを浴びながら好きなテレビを見ながらくつろぐこともできる。 ・家族の面会の際はリビング、居室だけでなく、相談室も利用して頂き会話を楽しんで頂いている。 ・個浴においてゆったりと入浴を楽しむことができ、職員は介助を通して入居者お一人おひとり一対一で親しくコミュニケーションをとることのできる場となっている。 ・トイレ使用後は臭いに気を付け換気や除染の対応等、清潔に保つよう職員全員が都度、清掃を心がけている。 ・冬に暖房を入れる際は加湿をして、乾燥を予防していく。	会社の社員寮向けだった建物を改築してホームが開設されて14年目となる。共用空間(居間兼食堂)は決して広くはないが、家具の配置を工夫するなどして、居心地のよい空間づくりに努めている。フロアやテーブルに植木や季節の花が生けられ、廊下などには水彩画、切り絵、写真などボランティアや元職員の作品が飾られ、温かみのある生活空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブル席は入居者同士の関係を活かし、案内したり、レクリエーションを行う時にはしたいことに応じて自由に席の移動を行っている。皆で楽しむ空間と共にソファで一人くつろいだり、テレビを見たり、新聞や本を読んだり自分の楽しみが持てる時間がある。お一人お一人のこうした居場所を大切にしていくために職員は常に見守りと関わりへの配慮をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇をおいておられる方がいる。畳の上に布団を敷いて寝ておられる方もあり、これまでの生活の継続を大切にしている。居室にご家族の写真をたくさん貼って、お孫さんの成長やご家族との繋がりを大切にされている。また、ご自身の作品を飾っておられる方もある。	居室は一人ひとりの思いをを大切にし、入居前の生活習慣を尊重して、使い慣れた家具などを持ち込み、心地よく過ごせるように工夫されている。清掃は職員が入居者と共に行い、清潔に保たれている。こたつを置くなど、各々の身体状況や好みに合わせた居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の出入り口や廊下には手すりが設置されている。立ち上がりやふらつきなどを予防し、安全に過ごしてもらっている。 ・居室入り口には段差はあるがスロープ状になっている所の滑り止めにて対応している。 ・トイレや浴室の掲示をしてわかり易くして安心感に繋げている。 ・新しい入居者の方にはトイレや居室への移動に付き添い、安心・安全に過ごしてもらい、早く慣れてもらえる様心がけている。 ・新しい入居者も徐々に施設内に慣れて、見守りの中でトイレ、ご自身の居室にご自身で向かう事が出来ている。 ・感染予防として手すり等の消毒に努めている。		